

ながい 議会だより



巖島湿生公園に飛来するアオサギ

3月議会定例会

②

町づくりを問う

⑨

一般質問5人が登壇

ぎかいトピックス

⑭

議会メールアドレス



第187号

令和 元年5月1日発行

神奈川県中井町議会

予算

を審議

3月定例会 (3月5日~15日)

37億9,300万円

総額 68億8,989万円

総務費

6億9,568万3千円

◆公共施設管理

問 公共施設長寿命化計画策定業務は、どのような手法で進めていくのか。

答 庁舎内の会議等で町の方向付け、建物のあり方、利用度も含め検討していく。その後パブリックコメント等予定。

問 公共施設に関して、耐震化建物の意義を検討か。

答 統廃合等を含め、全体的に勘案したなかで検討していく。

問 電気料は、公共施設の一括契約、民間での検討はされたのか。

答 総体的に判断したなかで契約している。

◆人事職員研修

問 人事職員研修費は、予算が増えているが、町の考えは。

答 事務事業評価の意見を踏まえて、自己研鑽に努めていく経費を計上した。

◆オンデマンドバス関連

問 オンデマンドバス実証運行のオペレーター賃金が無いが。

答 当初より事務量が減ってきた。職員で対応して経費の削減に努めていく。

問 運転免許返納者のサービス券の利用度は。

答 今年度の実績は9名。31年度も取り組んでいく。

問 移動の不便さに関して町長の考えは。

答 オンデマンドバスは町内完結型が最終点ではない。多くの町民の方に利用されるのがベスト。費用の問題もあるが検討していきたい。

◆税の現状は

問 個人町民税と固定資産税が減、法人町民税は増となった理由は。

答 固定資産税の土地は、前年より下落率が膨らみ、1100

万円の減額。家屋は、一般家庭の増築分として80万円増額。償却は、前年度の課税から減価償却分5%減で620万円減額。固定資産税全体として1670万円の減額計上。法人町民税は、新たに創業された法人の均等割り課税として見込んでいる。

◆シティプロモーション事業

問 オリジナル婚姻届の掲載料10万円計上しているが効果は。

答 昨年4月から12月までのダウンロード数は66件、町の実績は10件。

問 横断幕は新たな企画として作成するののか。

答 2枚の更新を考えている。



◆定住促進事業

問 総額600万円の予算だが、空き家対策と3世代同居の前年度の実績は。

答 空き家改修補助は2件136万円。3世代同居補助については改修1件、新築2件で210万円。

◆企画調整関係報償費

問 新たな顧問の依頼内容は。

答 政策に関わる助言と指導・職員の資質向上・観光的部分など年間120万で契約。

問 成果の見える化も含め課題意識は。

答 契約は1年で効果をだしていかなければいけない。

問 月10万の投資で1年間あつという間に過ぎてしまう。計画的に進めていってアドバイスを求めることは。

答 町の資源を使い観光客を増やすこと、職員の講演・講義についてお願いしている。決まり次第進めていく。



平成31年度

一般会計

民生費

11億5891万6千円

農林水産業費

2億230万2千円

◆高齢者支援

問 介護保険特別会計繰出金の中で職員給与費等繰出金が765万増えているが具体的な裏づけは。

答 31年度新規に介護予防の訪問事業の対応を職員4名体制で行う。

問 高齢者を対象とした、ファミリーサポートセンターのようなサービスが必要では。

答 社会福祉協議会で、同じような仕組みで生活支援サービスを行う準備をしている。

◆子育て支援

問 子ども・子育て支援事業計画の策定に当たり、どのようなことを新たに盛り込むのか。

答 保育の無償化もあり、保育ニーズの増加も含めて、適切な見込みを計画していく。

問 保育の無償化に伴い、こども園を民営化する考えは。

答 外部評価を受けた結果、高

答 いろいろな角度から、どういふ形がいいのか十分検討していかねばならない。



衛生費

2億6490万6千円

◆火葬場使用料

問 条例改正に際して、本町の火葬料の負担は、どのようになるのか。

答 本町では、秦野斎場が2万3000円、小田原市斎場が2万8000円。

問 火葬料に関して、住民の負担の立場からの検討は行われたのか。

答 外部評価を受けた結果、高

◆改善センターの図書室は

問 図書電算化について、どのようなシステムで、リース料とその期間はどのようになっているのか。

答 スマートフォンやパソコンから、蔵書の確認や貸し出し状況がわかるシステムで、システム導入の関係が115万9000円、保守費用が180万円でこれが5年間支払われる。8月をめどに進めたい。

問 司書の配置は、今後どのように変わるのか。

答 学校に行く日もあるが、月曜日から金曜日の9時から4時の間、井ノ口公民館と改善センターに常駐してもらう予定。

◆新規就農者確保支援

問 新規就農者確保支援補助金が、225万円増額しているが、新規就農者の現状と今後は。

答 現在、6人に補助金を交付している。また1人の方が相談に来ている。

齢者の方に対する事業全体のあり方の中で検討すべきという意見を踏まえ、一部費用負担について各個人に求めていくこととした。

問 5年間の補助金が切れる時点で、自立できるかがポイントだが現状は。

答 新規就農者に対して、年に2回面談をして、営農の相談を受けるようなサポート体制をとっている。



商工費

¥ 7652万1千円

◆ふるさと納税

問 ふるさと納税返礼品では、高額な返礼品をやめて、寄付額の3割以下にするよう総務省から指導があったが、本町への影響は。

答 本町の返礼品は、すべて3割以下に抑えている。寄付額の増減には大きな変化はないと考えている。



教育費

3億6551万2千円

◆青少年活動費 子褒め事業

問 外部評価では、D判定であったが、今後についての検討は。

答 中学2年生にアンケートを行った結果、8割が有意義と回答。新たに親が子どもを推薦する形を積極的に取り入れる。

問 賞状と一緒に配られる500円の図書カードについて、教育委員会の見解は。

答 中学2年生のアンケート結果から500円では何も買えないとの結果があったが、対価ではなく、表彰に意味があるとし、値上げはしない。また、読書推進から図書カードとしている。

◆各学校・施設工事費

問 中村小学校の北校舎トイレは老朽化や学童保育での利用が多いため、改修の要望が出ている。改修内容は。

答 女子用和式トイレを1基、暖房便座付きの洋式へ変更。早めの執行を考えている。

問 井ノ口小学校のプール外周フェンス改修内容と時期は。

答 老朽化により一部腐蝕等が発生したので新調する。プール時期に間に合うよう早めに対応する。

問 中学校の特別教室エアコン設置について。

答 美術室と理科室のエアコン設置を予定。時期を逃さず早めの執行としたい。

◆学校トイレの洋式化

問 昨今、和式トイレを使えない子どもがいる。洋式化への改修を進める必要があるのでは。3校の現状は。

答 全体で6割は洋式化されている。順次、必要性に応じて改修を行っている。今後は全体的な修繕計画のなかで行う考え。

◆テニスコート改修費

問 テニスコート改修内容は。

答 昭和61年に開設、その後、平成8年に全面改修を行った。スポーツくじ補助金の採択を受けられれば、人口芝を全面張りかえる予定。

問 改修時期はいつ頃か。スポーツプロジェクトを考慮した計画か。

答 夏場ぐらいには工事に着手したい。施設がよくなることでテニス愛好者を増やしていきたい。



土木費

5億7658万2千円

◆中央公園・第三者評価

業務委託費

問 町民は構成メンバーとなるのか。また、問題や課題を公表することはできるのか。

答 民間企業のノウハウを使って、第三者評価を行う。

改善点や課題を話し合う第三者委員会の設置は考えていない。

問 第三者評価はどのような観点で実施していくのか。

答 モニタリング調査を行い、課題を抽出する。また町民アンケートを実施して、町民が何を望んでいるか把握をして、中央公園の満足度の向上をめざしていく。

国民健康保険特別会計
総額 11億8559万4千円

問 加入者の平均年齢は。

答 平均年齢はわからないが、60歳以上の方でおよそ60%を占めている。

問 町独自の繰り入れが昨年度予算より削られている。その分を国保税負担軽減に活かすことが可能ではなかったか。

答 国・県から法定外繰り入れについて削減を求められている。国保加入者以外の方には、二重で社会保険料を支払うことにもつながる。

介護保険特別会計
総額 8億3119万7千円

問 初めて地域包括支援センターに相談をするときに連絡先がわからない。

答 周知ができていないところはある。問い合わせ等には丁寧な対応をしている。

反対討論
尾尻孝和 議員

賛成討論
成川保美 議員

昨年9月決算で、2017年度、一般会計の基金残高はおよそ15億円。一方、公債残高は2018年3月末で一般会計4億円、下水道会計30億円まで減少しています。

国による税制改正等の影響により、町税収入の増収が見込まれない状況があり、高齢化の進展に伴う社会保障費や経常経費などの歳出増により、財政の硬直化が懸念されながらも、第六次中井町総合計画に掲げる、活力・快適・安心の基本理念の実現に向け、合理化・効率化を図り、町民生活の安全性や利便性に直結する事業、将来的な自主財源確保につながる事業に重点配分されたことを評価します。

4年間で中井町の財政は、貯金が6億円増え、借金が12億円減りました。この傾向は本年度予算案でも変わっていません。

新規事業には公共施設長寿命化計画策定業務・総合計画策定事業・骨髄移植ドナー等支援事業・図書電算化事業が予算化され、12月議会に提出された議員決議の内容の、図書室の拡張、司書の配置強化、レファレンスサービスの提供や学習スペースの整備、蔵書の整理など、利用の拡大を図られる予算を捻出された努力を高く評価します。

庁舎や学校施設、各種インフラの更新など、将来を見据えた一定の基金は必要です。しかし、10億から20億円を超える箱モノ建設、大規模公共事業を自重することで、町民のくらし、福祉、子育て、防災などの願いに応える施策をさらに充実することは可能です。

財政状況が厳しくなる中、人件費は高騰しており、人事評価制度の本格導入も踏まえ、給与の適正化を図るとともに、行財政改革の在り方を再検討されることを願います。自ら律して頂き、非常勤職員数の在り方をはじめ、地域手当も国の指定基準に基づく支給率に沿うべきと考えます。

本年度予算案の、戸別訪問による健康・栄養指導の実施や図書室の拡充などの施策を歓迎するものです。しかしながら、町長ご自身の公約である学校給食の無料化に進展がありません。小児医療費の高校卒業までの無償化、高校生への通学費助成に向けての進展もありません。

この金額で契約を結ぶだろうか？等の視点を取り入れ、常に町民側の立場に立って、今一度、投資的效果を検証し、予算の縮減を見定め、血税を無駄なく活用されるよう願います。

かつて無料で利用できた町の公共施設。有料化されたことで利用者数や利用時間の減少が起きています。わずかの金額です。町財政の出し渋りでなく、「利用に負担をかけません、町の施設をもっと利用してください」とされたらいかがでしょうか。

一方では、時代に即した町民福祉の向上を追求され、中井町に住んで良かったと言って頂けるように、町民の利便性のための経常経費をしっかりと計上するよう求めます。

今年7月から火葬料金が変わります。近隣市町は1万1千円から1万2千円。中井町は2万3千円から2万8千円。亡くなった時まで差がつく町財政の出し渋り、到底賛成できません。国保税負担軽減のための繰り入れが年々削減され、本年度予算案で900万円、ふたたび削減されました。削減して国保予算が成り立つならば、せめて昨年と同額の繰り入れをおこない、その分、国保税の負担緩和に生かせるのではないのでしょうか。

負担軽減の条例改正を求め、反対とします。

各事業の予算執行において職員に求める事は、自分のお金な頂くことを求め賛成とします。

予算に 対する 反対討論

加藤久美 議員

31年度、何を重点に予算編成をするのかを示した「里都まち魅力ブラッシュアップ予算」は、活力・快適・安心の基本理念実現に向け策定され、地域活力の維持発展、人口政策、町独自の取り組みを積極的に進めるとしています。交流人口を増やす計画は定住人口の増加が目的ですが、町内人口は減少しているのですから人口流失の食い止めに入るべきです。人口減少の最大要因は「交通の不便」です。町がその課題に向き合わないのは何故なのでしょう。オンデマンドバス運行は、民間交通会社の要望は受け入れても、町民の要望は受け入れられない現状であることに強い憤りを感じます。公共施設は老朽化が著しく、支障や不便があります。給食センターや中村下会館など利用頻度の高い施設であっても手付かずのままです。31年度中村小学校入学者は18名とのこと。将来の子どもの増減に対応した

整備計画など、町民の暮らしに密着したものは何度も検証する必要があります。必要があり、早めの着手が大切です。町職員は少人数で沢山の事業を抱え、日々その大変さが伺えます。その中でも事業を見直し検証を行っていることは評価します。しかし、国から来た財源を事業に具体化する作業に追われ、交付金を使い切れず漠然と使い続けているのではないかと、効果はあるのでしょうか。自治体政策を決めるのは、何を優先して予算をつくるのか、自治体としての考え方・理念であると思います。したがって切実な住民要求に応えようとしなのは財政状況が原因というより、住民の声に応える「考え方」や「心」に欠けることが問題ではないか。最後に、地方自治の基本である住民福祉の増進、人権保障に必要なことであるかを再検証し、町民の暮らしに心をよせ、守るための予算にすべきであると訴え、反対とします。

条例改正

◎中井町税条例の一部を改正する条例

平成31年10月の消費税率引き上げにあわせ、法人町民税の法人税割の税率引き下げや軽自動車税の環境性能割等の導入に対応するため改正をおこなうもの。

問 改正にあたり、国に対し要望活動をおこなったか。

答 法人税割の税率引き下げは、影響額が大変大きい。町村会等を通じて国・県へ意見を届けるという活動はおこなった。

問 税収減にあたり、町政運営は大丈夫か。

答 中期財政推計は、法人町民税減収を見込んでいる。限られた財源のなかで、優先度を見極めて事業執行していく。

◎中井町火葬料補助条例の一部を改正する条例

利用が多い秦野斎場・小田原市斎場の火葬場使用料が増額改

定されたことに伴い、町民負担の適正化を図るため補助金を増額するもの。

問 町民の負担増になるが、どのように考えるのか。

答 火葬場使用料のうち、火葬業務に係る費用相当分は、負担していただくという考え方。

◎中井町消防団条例の一部を改正する条例

今後、消防団員の確保が困難になることが見込まれるため、本町に隣接する市町に居住する方に限り在勤者の入団を認め、入団可能者の閾口を広げるもの。

問 団員確保に努力されているなか、行政として今後どのように打開していくのか。

答 欠員は受けとめながら、定員は守っていきたい。

問 今回の改正によって、町民の生命・財産が守られるのか。

答 団員確保の方法を明確化した。しっかりと取り組んでいきたい。

◎町道路線の変更について

中井町遠藤字根下^{ねした}34番地先から、同35-4番地先を終点とする延長32mの区間を県から移管を受け、「町道藤沢小竹線」として、終点の変更をするもの。



在勤者も認めた消防団

補正予算

■一般会計補正予算(第5号)

7305万5千円の追加
総額39億7763万5千円に

歳出では、総務費で職員の仕事に伴う退職手当組合負担金を増額。民生費で保健福祉センターの土地開発基金による先行取得用地の買い戻し費用を計上。国民健康保険特別会計及び介護保険特別会計への繰出金の増額。土木費では、下水道事業特別会計繰出金の減額。消防費では常備消防事務委託料について、前年度清算による剰余金を減額。歳入では、地方交付税、ふるさと納税による寄附金を増額、歳出の事業費増減に伴う国・県支出金を計上。また、今年度の決算見込を踏まえ、財政調整基金等積立金を計上するとともに、歳入の不足額は前年度繰越金により歳入歳出の均衡が図られた。

問 110年記念事業開催費の補助金が減額されている。実績は。

答 2件の町民提案による補助

事業であった。補助金を利用しない事業展開もあり、住民参加に感謝している。

問 保健福祉センター用地買収費が計上されているが、なぜ補正予算で買い戻しをするのか。

答 公共用地の先行取得で土地開発基金を活用した。一般会計で繰越金が見込めることから、買い戻し、基金に積み立てる。

■国民健康保険特別会計補正予算(第3号)

9361万4千円の減額
総額12億1983万円に

歳出では、療養給付費及び高額療養費を減額し、前年度国民健康保険高額医療費共同事業負担金の精算に伴う返還額を追加計上。歳入では、保険税を収納見込みにより減額、保険給付費等交付金を減額し、不足する額は、その他一般会計繰入金及び前年度繰越金を追加して収支の均衡が図られた。

問 保険給付費がマイナス補正。

大きな支出がなかったのか。

答 被保険者数の減が大きな理由で考えている。

■介護保険特別会計補正予算(第3号)

1690万円の追加
総額8億1965万4千円に

■後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第2号)

124万6千円の減額
総額1億3033万4千円に

■下水道事業特別会計補正予算(第2号)

2500万円の減額
総額5億2491万1千円に



訴訟上の

和解について

本町職員が公務中の事故により負傷し休職したことに伴い、当該職員の休職期間中の給与等を町が負担していることから、平成29年11月臨時会において議決した当該事故の相手方に対する損害賠償請求の訴えの提起について、裁判所から和解勧告がされたことを勘案し、訴訟上の和解をすることに議決を求められた。

固定資産評価審査

委員会委員の選任

固定資産評価審査委員会委員に
城所 正氏(再任)
早野芳孝氏(再任)
大原 勉氏(新任)
を選任することに
同意しました。

平成31年3月25日をもって任期満了となることから、城所正氏と早野芳孝氏は引き続き、大原勉氏は二宮章悟氏に替わり新たに選任されました。同意を求められ賛成しました。

中井町副町長の選任

副町長に
加藤幸一郎氏(再任)
を選任することに
同意しました。

平成31年3月31日をもって任期満了となることから、加藤幸一郎氏を引き続き選任することに同意を求められ賛成しました。

人事案件の諮問

人権擁護委員に
小澤重之氏(再任)
を選任としました。

本年6月30日をもって任期満了となることから、引き続き推薦することに意見を求められ、適任としたものです。

平成31年第1回定例会 審議した議案等と審議結果

提出者	議案名	議員名	議決日	審議結果	加藤久美	井上泰弘	峯尾進	庄司征幸	尾尻孝和	戸村裕司	原憲三	森文嘉	小清水招男	成川保美
町長	中井町税条例の一部を改正する条例		3/6	可決	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○
町長	中井町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例		3/6	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町火葬料補助条例の一部を改正する条例		3/6	可決	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○
町長	中井町布設工事監督者の配置及び資格並びに水道技術管理者の資格に関する条例の一部を改正する条例		3/6	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町消防団条例の一部を改正する条例		3/6	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	町道路線の変更について		3/6	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	平成30年度中井町一般会計補正予算(第5号)		3/6	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	平成30年度中井町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)		3/6	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	平成30年度中井町介護保険特別会計補正予算(第3号)		3/6	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	平成30年度中井町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第2号)		3/6	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	平成30年度中井町下水道事業特別会計補正予算(第2号)		3/6	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	平成31年度中井町一般会計予算		3/15	可決	●	○	○	○	●	○	○	○	○	退席
町長	平成31年度中井町国民健康保険特別会計予算		3/15	可決	○	○	○	○	●	○	○	○	○	退席
町長	平成31年度中井町介護保険特別会計予算		3/15	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	平成31年度中井町後期高齢者医療事業特別会計予算		3/15	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	平成31年度中井町下水道事業特別会計予算		3/15	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	平成31年度中井町水道事業会計予算		3/15	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	訴訟上の和解について		3/15	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町副町長の選任について		3/15	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町固定資産評価審査委員会委員の選任について		3/15	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町固定資産評価審査委員会委員の選任について		3/15	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町固定資産評価審査委員会委員の選任について		3/15	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて		3/15	適任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※岸 光男 議長は採決に加わりません。○は賛成、●は反対を表しています。

委員会から報告します

総務経済常任委員会

当常任委員会において、継続審査となっていました「公民連携について」と「インター周辺の土地利用について」は、審議を終結し、その結果を次のとおり3月定例会で報告しました。

「**公民連携について**」は、公民が連携して提供する公共サービスの在り方や、町への民間活力の導入を探索することを目的に調査・研究してきたところですが、当委員会では、その方向性を示す事といたしました。

- ① 新たな発想による公民連携の活用
 - ② 適切な公民連携手法の選択と評価
 - ③ 積極的な公民連携手法活用に向けた職員の意識改革
- この3点が公民連携に必要と考えています。

町におかれましては、この点を踏まえ、町民への公共サービスの充実を更に推進していただくことを求め、所管事務調査を終了します。

「**インター周辺の土地利用について**」は、町として大きな事業であることから、地権者の賛同を得て、適正な事業計画を作成され、事業認可を受けることが重要です。特に地域住民への十分な説明と理解を得て、この事業の推進を図っていただきたい。ここで、所管事務調査は終了としますが、今後も注視していく必要があると考えています。

以上、総務経済常任委員会報告といたします。

総務経済常任委員

委員長 井上泰弘
副委員長 峯尾進

委員 原憲三
委員 岸光男
委員 戸村裕司
委員 森文嘉

一般質問

持続可能な町づくりに向けた人口対策は



峯尾 進 議員

町長 目標人口を確保する取り組みを推進する



交流拠点グランドオープンの様子

人口減少に悩む今日、町は定住促進に向けて、多くの支援策を掲げており、空き家バンク・住宅支援・子育て支援など展開しております。施策の推進は総合戦略などで、町の良さをアピールして、定住につなげる取り組みが位置づけられております。

しかし、人口減少は止まる事なく、特に若年世代では利便性の良い地域への転出が続いております。町はこれらの現状を受け止めた上で、事態の分析と対応した仕組みづくりが課題となり、町の特性を活かした持続可能な町づくりの再考と、町内における地域資源の利活用や移住環境の整備など、内なる環境の基盤強化を図ることが不可欠と考え、現行事業の検証と今後の取り組みを伺います。

問 人口転出抑制と定住促進事業の分析及び検証と今後の取り組みは。

答 人口減少、転出抑制の成果は表れておりませんが、総合戦略も5年目を迎えており、効果検証と見直しを図り、次年度事業に反映させていく。

問 将来人口推計を考慮すると生活関連サービスの縮小と地域コミュニティ機能の低下にどのように対応していくのか。

答 商業施設・医療機関の誘致やオンデマンドバスの運行など生活関連機能の確保に努める。また、自治会活動の縮小停滞は、地域活力の衰退や防災・防犯の面から重要課題であり、自治会役員研修会の補助など各種自治会支援事業の充実に努めている。

問 地域資源の利活用と移住環境のブラッシュアップは。

答 中井中央公園を情報拠点として地域活動の充実に努め、スポーツ環境や里山など、自然環境を堪能していただき、魅力形成と農産物などを活用した里都まちブランドなど地域資源の



賑わう里都まちCAFE

ブラッシュアップに努める。移住環境整備では、商業施設、医療機関など誘致を進めてきた。駅はないが二つの鉄道を利用する鉄道環境やインターチェンジからのアクセスなど生かし、町内のオンデマンドバスの運行など必要な都市機能の確保・充実に努めていきたいと考える。

一般質問

地域防災力を 向上させるために



森 文嘉 議員

町長 甚大な被害を受ける状況を想定していない

21世紀は、荒ぶる自然と脆弱化する地域社会の時代といわれ、高齢化の進む住民からの行政への期待は高まる一方である。

問 木造住宅の耐震化の状況は。

答 平成27年度末、耐震化率は68.1%であり、今後700棟規模の耐震化が必要になる。

問 住宅密集地での不燃化対策について検討されているか。

答 市街化区域で建物が隣接している地域の不燃化は、県より指導されているが、これまで検討したことはない。今後、耐震化と併せて検討できればと思う。

問 水道管と下水管の耐震化は。

答 水道管での、耐震の適合基準を超えたものは、27.8%。配水池では、9か所の施設のうち6か所で耐震化されている。

下水では、マンホールの継ぎ手はずれる傾向にあったが、平成13年以降、抜け止め防止の部材を使った施工をしている。

問 緊急輸送路確保のため、の

り面などの調査・改善の状況は。
答 来年度の道路・インフラの長寿命化計画策定の中で、のり面調査をしていく。現在、目視点検を実施している。

問 発災初期では、隣町に頼らない町の自助力が必要になる。けが人などの対応については。

答 町内医療機関で対応していただく。スタッフがいないときは、足柄上医師会に救護班の要請をすることになっている。

問 勤務時間以外での、職員参集の想定は。

答 発災から6時間までの参集は、50%と想定している。

問 「災害時活動マニュアル」と「業務継続計画」の準備は。

答 どちらも、優先順位事項、取り扱うべき業務、誰がやるかなど、時間軸で併せて計画している。参集状況に応じて柔軟に対応したい。



平成28年 熊本地震 益城町

問 避難所運営計画・避難所運営マニュアル策定のための避難所運営委員会設置については。

答 現在、避難所ごとの運営マニュアルを策定している。実際に避難した人たちで委員会を組織する方向で考えている。

問 熊本では、発災後に自治会長など運営委員会を組織しマニュアルを作るまでに10日ほどかかったことから、事前に組織を作っておく必要がある。現在、地元自治会長に鍵を預けているが、建物の破損状況を

確認せずに避難所を開設できないのでは。

答 雨風をしのぐため鍵を預けているが、避難所開設の責任は町が行つた。

問 福祉避難所の予定は。

答 町内の高齢者施設のほか、福祉センターも考えられる。

問 透析者など病院の必要な人全介護が必要な人のほかに、産前産後の家族、3歳以下の子どもがいる家族、精神疾患のある人、食事や一部に介助が必要な人などのために、学校の教室も充てる必要があるのでは。

答 体育館以外の学校施設は検討していないが、多様な避難者に対応できるように調整していきたい。

問 事前復興計画は。

答 地域が甚大な被害を受ける想定をしていないため、事前復興計画の策定は考えていない。

一般質問

憲法をどのように認識され、 町政に生かすか

他 1 問



尾尻 孝和 議員

町長 戦後日本の平和と安定、発展に大きく寄与

問 自由民主党の改憲案が提示されるなど、今、日本国憲法をめくって論議が広がっています。公務員は、「この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。」との規定に従って町長が町政運営をおこなうことは当然のことですが、さらにすすめ、町長として日本国憲法の三大原理とされる「基本的人権の尊重・国民主権・平和主義」の精神をどのように認識され、また町政運営に生かそうとされるのか。

答 日本国憲法の三大原則である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の考え方は、戦後日本の平和と安定、経済発展に大きく寄与してきたと認識しております。

問 憲法の縛られる側の権力者がみずから改憲の旗を振るという上からの改憲がいかにも無理筋であるか、どう考えられますか。

答 議論はしていただいて私は結構だと思います。最終的に国会で決め、改憲については国民

投票という形になりますから、その結果を重んずればいいのかという判断。

問 安倍首相は「自衛隊の新規隊員募集に対して、都道府県の6割以上が協力を拒否している」という悲しい現実があります、この状況を変えようではありませんか、憲法にしっかりと自衛隊を明記して違憲論争に終止符を打とうではありませんか。」このように話されています。この拒否の中に中井町も入っているという認識は。

答 法律にのっとった部分の最低限だけはやっているというふうに思っている。



問 憲法9条に自衛隊が明記されれば、この問題で市町村に四の五の言わせないと、文字どおり義務として提出していただく、こういうことだと思うが。

答 そこについては答えることができません。

自治会を地域住民の自主的組織として支える施策を

問 高齢化の進行の中、年金生活者の割合が広がり、さらに新規入会者の減少、新たな退会者の発生、加入割合の減少といったなかで、各自治会の財政事情は厳しさを増しています。自治会費を値上げできるような状況はごもない。

温暖化が進行するなかで、また自治会には高齢のみなさんが増えています。エアコン設備のない自治会館に、今年の夏には間に合うようエアコンが設置されることを望みたい。バリアフリー工事は、会館修理40万円の最低額にかかわらず、

補助金が出されています。エアコン設置についてもバリアフリー工事と同様に扱ってはいかがか。

答 高齢者の方とかが暑いなかで、中にいて倒れたらという大変なことも想定される状況にありますので、それについては、今後、町の検討課題とさせていただきます。

問 町の有形文化財を入れる山車小屋、倉庫の設置や取り壊し、大きくなった樹木の伐採、こういったものなども自治会がその費用を負担して行っているものがあります。補助対象を自治会館以外にも広げるようにされたらいかがか。

答 支援のあり方については改めて検討はさせていただきます。

一般質問

防災・減災対策は

他 1 問



原 憲三 議員

町長 防災対策の総合的な推進を図っていく

地域に7分団128人からなる消防団がある。消防団は火災、風水害、地震などの災害に備えており、地域の重要な役割を果たしている。年々団員の確保が難しくなっていることから伺います。

問 消防団懇話会への諮問事項の「消防団員の適正人員・確保対策」は、どの様になったか。

答 有識者から成る消防団懇話会に今後の中井町消防団が直面する課題について検討を依頼し、先般のご意見で団員の適正人員・確保対策は現行の定数を維持する、在勤者の入団を認めることなどを提言いただいた。入団対象者の閾口を広げるため町内在勤者の入団を認めるとし、今般、中井町消防団条例の関係規定の改正を行うところです。

問 新年度を迎えて、消防団員を選ぶ各自治会長さんから聞きますと、後任者の選任で非常に悩んでいると伺っているが行政の考えは。

答 団員の確保は各分団にお願



活躍する女性消防団（横須賀市消防局提供）

いしているが、分団によっては各自治会に何名としてお願いしている。自治会長からも団員の確保が難しいとお話は聞いている。

問 以前、女性消防団について伺ったが「危険を伴うことから考えていない」でした。しかし啓蒙活動や女性のできる災害活動がある。再考は。

答 消防団の任務の中には、啓蒙活動や後方支援などの業務もあります。本人の希望と対象分団の団員確保状況がうまくでき

れば女性の入団、活躍も可能と考えます。女性だけの消防団は運用上難しい。現在は考えてない。

問 環境の似た町村で中距離での災害協定の検討結果は。

答 災害相互応援協定に関しては、広域レベルでの取り組みが進んでいます。平成29年に山梨県を含む関東1都7県の関東町村会にて、「災害時における相互応援に関する協定」を締結したところであり、町村会が窓口となり、町村へ食料、物資等の提供を依頼する仕組みとなっており、恩恵を受けることができる。

問 災害時の職員人手不足対策で、各自治会に災害時運行車両の許可制度導入はいかがか。

答 大規模災害時に交通規制が行われる。緊急交通路や緊急輸送道路の指定や規制は県公安委員会の業務となり、町において通行許可等の対応はできない。

公用車による輸送や自主防衛会と連携に取り組んでまいりたい。

展望広場の改名は

問 昨年、なかい誕生110年を迎えました。中央公園の交流人口を増やすため地方創生交付金等による、「里都まちCAFÉ・ピザ窯」等がオープンしました。地図によりますと「展望広場」になっていますが、新たなネーミングを考えては。「愛と感謝の丘」にと考えますが。

答 ハート型のモニュメントはなかい誕生110年節目の年に、町の目指す将来像である「一人ひとりが主役！ 魅力育む 里都まち♡なかい」にちなみ、中井中央公園の展望広場に寄贈いただきました。ハートは心臓や恋愛表現、幅広い年齢層が訪れ利用や交流（ふれあい）が広がるふさわしいシンボルと言えます。公園の新たなシンボルネームは公募したい。

一般質問

町道の整備は



井上 泰弘 議員

町長 財政状況を見ながら整備

町道の整備は

中井町には、鉄道の駅は無いが、近隣市町の国道や有料道路と接続する県道は整備され、道路網は充実している。これらの駅や道路へは、町内のどこからでも車で30分以内に利用できる距離となっている。国や県の管理する道路が整備されるなか、本町の道路整備が遅れていると感じている。



整備が望まれる五分一幹線

幹線道路の整備は

問 藤沢小竹線の改修をどう考えているのか。
答 藤沢川の地籍調査をしている。河川改修にあわせ町道の改修も計画していきたい。

問 2級町道、五分一幹線の整備を町はどう考えているのか。
答 五分一幹線は、東西を補完するためには重要な路線と認識している。整備の必要性は感じているが、検討は進んでいない。

問 平成27年9月の定例会での質問に「必要な財源確保を図ったうえで計画的に取り組んでいきたい。」との回答から3年半になる。何か進展があればお聞きしたい。

答 当時から、財政状況の好転が見られないのが一番の問題。今後、五分一幹線の整備に向けた検討を進めていきたい。

問 県も国も財政が厳しいなか、社会資本整備総合交付金を活用できるのか。

答 補助対象のハードルが上

がっている。道路の整備は、町単体ではできない。国・県に補助対象の拡充・予算の確保を要望していく。

問 メガソーラーから久所方面へ少しずつ買収し、ある程度買収できた段階で、改修したらどうか。
答 事業化のスタートと同時に用地の買収をしていく。税控除を考えながら、地権者に協力していただく方法を考えている。

問 生活道路の舗装率は、88%ですが、現在の整備状況は。
答 現在の舗装率、整備状況は90%となっている。

問 自治会から、生活道路の整備要望はどのくらいあるのか。また、要望に対しての整理状況は。
答 自治会からの要望は、過去10年の舗装補助は、9件で1千万円近く補助している。要望残は10件ではない。

問 藤沢地区は、役場に来るのに五所宮か中井隧道を回らなければならぬ。山を切り崩すかトンネルをつくれれば早い。
答 都市マスタープラン・総合計画に合せた道路づくりを考えていきたい。

問 住宅はセットバックしているが、住宅と住宅の間が空き地や農地になっており、でこぼこになっているところがある。少しずつ買収し、4mの生活道路にしてはどうか。
答 地権者の理解を得た箇所は、用地を協力いただきながら、整備を実施した事例もある。個々具体的に相談し整備を進めていく。

問 私道や狭隘道路沿いにお住まいの方は、本町の同じ住民で、同じ税金を負担しながら、行政サービスの不均衡という問題もある。町道に認定し、整備する必要があると思うが考えは。
答 町の基準に合致すれば、底地を官地として、以後の管理は町が担うことは可能。

ぎかい トピックス

平成30年の議会の取り組みや常任委員会活動の報告、参加いただいた皆さまとの意見交換を中心とした議会報告会を次のとおり開催しました。

2月9日(土) 18時～ 井ノ口公民館

2月16日(土) 18時～ 農村環境改善センター

両会場あわせて25名の参加で、多くの質問や意見が寄せられました。一人ひとりの声を謙虚に受け止め、今後の議会運営に活かしてまいります。

議会報告会

●意見交換での内容

【議会報告会について】

声 議会報告会で議員の活動がよくわかったが、参加者は少ない。

答 ケーブルテレビでの議会中継やSNSなどもあり、以前と比較して広報はしている。努力しているが、人が集まらないというのが悩み。

【議員定数について】

声 4月下旬に選挙があるが、定数割れも噂されている。定数削減も検討するべきではないか。

答 全国的に議員のなり手不足が課題。前回も25%の市町村で無投票。本町でもそうしたことが起こることが考えられる。

声 議員定数は10人が理想と考えている。議会で議員定数の議



論はあるのか。

答 14人から12人に減らした。さらに減らすことで合議体として多様な意見が出るか難しい。

声 議員はかつて、地域代表的な性格で意見の吸い上げがうまくいっていたが、議員がいない地域もある。自分以外の自治会に出向く担当制のような形で議会運営に生かしてほしい。

答 意見聴取に議会報告会も開催している。今は自治会推薦という時代でもなく、意欲がある人は率先して議員に手を挙げてもらいたい。

声 議員が一生涯懸命やっているのはわかったが、12人で人口減少を考えていくのは大変。町民参加のワーキンググループを作ってはどうか。

答 広聴委員会で、どうしたら意見交換会ができるか検討している。ご提案も含め検討していきたい。

【厳島湿生公園について】

声 厳島湿生公園は自然公園として維持する議論はあるのか。管理する団体も湿地帯で苦労している。

答 貴重な自然地として保全する立場にある。木道の工事の計画もある。

【人口対策について】

声 町が抱える問題は高齢化ではないか。中井町は環境が良いところなので、若い人が入りやすい住居を作って集めてはどうか。市街化区域が10数%しかないのも問題。

答 人口減少を食い止めるのは難しい。市街化区域は、おおむね5年に一度の線引き見直しを待たないといけない。

声 夜間人口が増えないことには人口は増加しない。農業林業を利用しながら、定住してもらうなどの定住促進を図れないか。

答 新規就農で20人定住している。空き家対策など補助金も出している。少子高齢化に対して議会も町も取り組んでいる。

【防災対策について】

声 昼間に男性がいらない。女性防災隊を育成するのはどうか。

答 消防団懇話会で、町内企業に勤めている人も加わってもらうという方向が出た。

【その他の意見】

声 公共施設の利用料が改定され、自治会館を利用してサークル活動をしているという話を聞いた。施設利用の本来の目的達成にむけて問うてほしい。



● 委員会報告から

「生活交通対策 事業」について

声 オンデマンドバスで赤十字病院に行けるよう老人会から要望を出したが、急行バスが通るからと町の回答があった。停留所は高齢者には行きにくい場所

で、時間的にも通院に適していない。

答 二宮駅から旧道を通るバスの赤十字病院経由も今後検討することになっている。
地域公共交通会議を経て具体化されるのを見守っている。

声 高齢化が進む中、中村側の交通は不便な状態。オンデマンドバスもあまり利用できていない。二宮、秦野に出る交通手段を残してほしい。

「インター周辺の土地利用」について

声 秦野中井インターチェンジ南土地区画整理準備組合が結成されたが、秦野市とどのように連携していくのか。

答 県の窓口も一本化され、一体的に取り組むよう指導があった。秦野市から負担金を受けボ—リング調査を実施。

声 完成時期や10mの盛土について地域住民への説明がまったくない。計画が固まる前に説明してほしい。

答 まだ準備段階なので地域への説明は、計画ができた段階になるのでは。

声 盛土で保水能力が変わってくる。近年、降水量が増えているので、検討しているのか。

答 設計上は考えているだろうが、今は、はっきりした回答はできない。

声 完成後、井ノ口の農業者への影響は、農振農用地の変更はできるのか。

答 土地改良事業であり、農振農用地を変えることはできない。東農道のこともあり、簡単にはいかないと思っている。

「今後の図書館のあり方」について

声 施設が変わらない中、図書電算化の効果はあるのか。現在の利用状況では意味がないのでは。

答 システムは新たな施設でそのまま利用できる。貸出数は電算化後に増えている市町村もあり、効果は大きい。

声 図書室が井ノ口と中村、2か所の必要があるのか。規模的にも1か所に集約して利便性の高いものにしてはどうか。

答 電算化で2か所が1か所の

ように使えるメリットがある。

声 豊かな心を育てるといふことで、図書室に注目したのはいいが、司書のあり方や運営、読書活動など自身の充実に目を向けるべきである。

答 視察を通して、そうしたものを感ずる部分があった。

声 司書を増やすと決議しているが、司書の研修などはどう考えていくのか。

答 執行側の内容になる。皆さまの図書室への熱い想いが伝わった。



議会のつぎ

2月

9日 議会報告会 (井ノ口公民館)

12日 議会全員協議会

16日 議会報告会

19日 上郡議長会議員研修会 (農村環境改善センター) (大井町)

26日 議会広聴委員会 議会運営委員会

3月

5日 定例会本会議

6日 定例会本会議

7日 総務経済常任委員会

12日 定例会本会議

13日 定例会本会議

15日 議会全員協議会

15日 議会運営委員会

15日 議会全員協議会

15日 定例会本会議

26日 議会だより編集委員会

4月

3日 議会だより編集委員会

10日 議会だより編集委員会

15日 議会だより編集委員会



議会を傍聴しませんか

次回の定例会は

6月11日(火) 午前9時 開会予定

湘南ケーブルテレビにて放映されます 102チャンネル 生放送

議会傍聴席は役場庁舎3階です 詳しくは議会事務局(☎81-3905)まで



自治功労者表彰

町村議会議員として15年以上 在職し功労のあった者として、 小清水 招男 議員が、 全国町村議会議長会より、 自治功労者表彰を受けられました。



右後列から加藤、庄司、峯尾、井上、森、戸村議員 右前列から尾尻、成川、岸、原議員 4年間お世話になりました。

編集後記

この記事が掲載されるころは新しい元号となっていることでしょうか。何だか未来への手紙を書いているような気持ちになります。 「政治屋は次の選挙を考え、政治家は次の時代のことを考える。」なんて名言がありますが、政治は未来に向けたものであると私は思います。 未来といえば、最近ではAI(人工知能)を政治に活用すべきだという考えがあります。これは、AIにはエゴがなく、全てを公明正大、一切の主観を交えず判断するからだそうです。 もう人間ではダメなのか？人のための未来ではないのか？と、少々複雑な気持ちになりました。 未来図には、コンピューターではなく、人が人々にとって大切なものは何かを今一度考え、政治を見直し、暮らしや心の豊かさを追求する。そうした要素を欠かさないことが何よりも重要な心から思います。 新しい時代の幕開けですから「未来志向」でいきたいものです。平成の議会だよりは最後となります。自由で元氣な未来志向の「議会だより」を願いつつ、編集作業を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。(加藤)

町民の声

古宮タマ子さん (宮向)

私は、この町で農業を営んでいます。以前は家も少なく、何かと不便でしたが、緑に囲まれたよい環境でした。 最近の地域の発展はめざましく、新築の家が建ち、スーパーや診療所も出来て、非常に便利になりました。私の家からだと、徒歩圏内でいただいた物はそろそろようになりませんが、なるべく便利で、自然環境とのバランスのとれた町になるようにしてほしいと思います。 ただ、鉄道の駅から遠く、バスの本数が少ないなど、もう少し改善してほしいと思います。

議長 加藤 久美 委員 井上 泰弘 編集委員 副委員長 峯尾 進 委員 庄司 幸